

Everybody Is Defferent---“GOTAI FUMANZOKU”  
(皆が異なっている --- 五体不満足)

P.90

Part 1

「なんてかわいいのかしら！」母は、初めて僕を見た時に言った。

母は、僕が生まれた日に僕に会うことを許されなかった。

【文章構造:関係副詞 when】

She wasn't allowed to see me on the day ( when I was born ).

先行詞+when+・・・＝「…の(時)」

※先行詞が「時」を表す語句の場合、関係副詞 when を使う

彼女がやっと僕に会えたのは、1ヶ月後のことだった。

【文章構造:強調構文】

It was one month later that she could see me at last.

強調されている

[It is ~ that.....] = [.....なのは～だ]

※ 強調したい部分にを前に出し、残りは that...にそのまま続ける。

= She could see me one month later.

誰もが彼女のことを心配していたが、彼女はまったくショックを受けなかった。

彼女は、僕を見て本当に幸せそうだった。

1976年4月6日に、僕は腕も脚もない状態で生まれた。

当時は、親たちは生涯を持った子供たちを世間から隠していたが、僕の両親はそうしなかった。

彼らは、いつも一緒に僕を連れ出した。

家の近くの小学校に両親が僕を入学させるのは難しかった。

【POINT】

It was hard for my parents to get me into the elementary school (near my house).

[It is ~ for (人) to] = [(人)が～することは～だ。] ※It は to～を指す形式主語

僕の両親は、僕が養護学校に行くべきであるとは考えなかった。

彼らは、教育委員会を一生懸命説得し、ついに許可を得ることが出来たのだ。

しかし、僕が学校にいる時でも、両親のどちらかが僕に付き添わなくてはならなかった。

## 【WORDS】

allow	〔動詞〕	許す、許可する
be allowed to	〔熟語〕	～することを許される、～させてもらえる
in those days	〔熟語〕	当時
hide	〔動詞〕	隠す
hide ~ from the public	〔熟語〕	世間の目から～を隠す
physically	〔副詞〕	物理的に、身体的に
challenged	〔形容詞〕	身体に障害のある
take~out	〔熟語〕	～を連れ出す
all the time	〔熟語〕	いつも
persuade	〔動詞〕	説得する
educational	〔形容詞〕	教育の、教育的な
board	〔名詞〕	委員会、役員会
an educational board	〔名詞〕	教育委員会
permission	〔名詞〕	許可

## 【Q Part 1】

1.  
〔質問訳〕 初めて洋匡を見たとき、何といいましたか？  
〔解答例〕 She said, "How cute!"  
〔解答訳〕 彼女は、「なんてかわいいのかしら！」と言った。
2.  
〔質問訳〕 彼はいつ生まれましたか？  
〔解答例〕 He was born on April 6, 1976.
3.  
〔質問訳〕 彼の両親は、世間の目から彼を隠しましたか？  
〔解答例〕 They took him out with them all the time.  
〔解答訳〕 両親は彼をいつも一緒に連れて歩いた。

## 【P.91】

### Part 2

僕の担任の高木先生は、クラスメートが僕の世話を焼きすぎることを許さなかった。

彼は、僕に自分自身で出来ることは、やるようにさせたかったのだった。

時々、僕は悲しくなったり、腹が立ったりしたが、少しずつ、僕は電動車椅子がなくても動くことを学んだ。

ある日、高木先生がクラスに向かって言った。「学校の遠足で弘法山へ行きます。

あの山に登ることはとても大変でしょう。

そのため、今回オトちゃんと一緒に行くことはできません。」

すると、僕のクラスメートの1人が言った。「どうしていけないのですか？

そんなの不公平です。」

彼らにとって、僕は障害を持った少年ではなかったのだ。

私は、ただ彼らの一員だったのだ。

しばらく話し合いをした後、僕たちは一緒に行くことを決めた。

それは長い道のりで、皆非常に疲れた。

しかしながら、山の頂上で食べたおにぎりの美味しい味を、僕は今でも忘れることが出来ない。

**【WORDS】**

little by little	〔熟語〕	少しずつ
electric	〔形容詞〕	電気の、電動の
wheelchair	〔名詞〕	車椅子
an electric wheelchair	〔名詞〕	電動車椅子
Oto-chan	〔固有名詞〕	オトちゃん
unfair	〔形容詞〕	不公平な
discussion	〔名詞〕	議論、話し合い
taste	〔名詞〕	味
a rice ball	〔名詞〕	おにぎり
at the top of~	〔熟語〕	~の上で

**【Q Part 2】**

1. [質問訳] 高木先生は、ヒロタダに何をすることを学んで欲しかったのですか？  
[解答例] He wanted Hirotada to learn to do what he could by himself.  
[解答訳] 彼は、ヒロタダに自分で出来ることは自分ですることを学んで欲しかった。
2. [質問訳] そのクラスは、学校の遠足でどこへ行きましたか？  
[解答例] They went to Mt.Kobo.  
[解答訳] 彼らは、弘法山へ行った。
3. [質問訳] ヒロタダは、クラスメートと一緒に弘法山へ行きましたか？  
[解答例] Yes, he did.  
[解答訳] はい、行きました。

**P.92**

もし、障害を持った人々と、そうでない人々との間にある溝を埋めれば、障害者などいなくなるのである。

**【POINT】**

There are no handicapped people

if we bridge the gap between  
もし~ならば

{ those (who are handicapped)  
and  
those (who aren't [handicapped]) }

[those who...] = 「...の人々」

僕たちは、その障害物を取り除かなければならない。

スロープ、エレベーター、トイレなど特別な施設を提供するだけでは、十分ではないのである。

人々は、子供の頃から障害を持った人々と一緒に生きなくてはならない。

そうすれば、彼らは生涯を持った人々のことを、変とは思わなくなるだろう。

僕は、スポーツが大好きである。

僕は、一番野球が好きだ。

小学校に入学したとき、僕の友人たちは、僕たちが一緒に遊ぶことができるように、いくつかのルールを考えだしてくれた。

彼らは、それらを「オトちゃんルール」と呼んだ。

例えば、僕がボールを打ったら、誰かが僕の代わりに走るのだった。

僕の友達には障害を取り除いてくれたため、僕はもう障害を持った少年ではなかった。

## 【WORDS】

remove	〔動詞〕	取り除く
barrier	〔名詞〕	障害、障壁
It is not enough just to~	〔熟語〕	ただ~するだけでは十分ではない
provide	〔動詞〕	提供する、与える
facility	〔名詞〕	施設、設備
ramp	〔名詞〕	スロープ
elevator	〔名詞〕	エレベーター
toilet	〔名詞〕	トイレ
etc.	〔名詞〕	~など、その他
childhood	〔名詞〕	子供時代
think of... as ~	〔熟語〕	…のことを~と考える
think up	〔熟語〕	考え出す
so we could play together	〔熟語〕	一緒に遊べるように
not ... any more	〔熟語〕	もはや...ではない

## 【Q Part 3】

1.  
〔質問訳〕 障害を持った人々に特別な施設を提供するだけで十分ですか？  
〔解答例〕 No, it is not.  
〔解答訳〕 いいえ、十分ではない。
2.  
〔質問訳〕 ヒロタダは、中学校で何のチームに入りましたか？  
〔解答例〕 He joined the basketball team.  
〔解答訳〕 彼は、バスケットボールのチームに入った。
3.  
〔質問訳〕 日本では、誰がよく偏見の目で見られますか？  
〔解答例〕 People who are different from others are often seen with prejudice in Japan.  
〔解答訳〕 日本では、他の人々と異なる人はよく偏見の目で見られる。

**P.93**

僕は、本当にプロ野球選手になりたいと思っていた。

僕には、全てが可能であるように思われた。

中学校では、僕はバスケットボール・チームのメンバーになった。

誰も僕ほど低くドリブルすることが出来なかったため、僕はドリブルの名人だった。

高校では、僕はアメフトのチームに入った。

僕はプレーすることはなかったが、他の方法でチームを助けた。

例えば、僕は試合の記録をつけた。

僕は、友達と同じくらい学校生活を楽しんだ。

僕らが他の人々を受け入れることを学ぶことも重要である。

【文章構造:It is 形容詞 that・・・】

It is <also> necessary that we should learn to accept other people.

〔It is [形容詞/名詞] + that S + V …… = 「・・・することは～だ」

※it は that・・・を指している形式主語

日本では、もし人が他の人々と違っていると、よく偏見の目で見られる。

障害者にとって、そのような社会で生きることは非常に困難なのである。

【WORDS】

expert	〔名詞〕	名人、専門家
dribble	〔動詞〕	ドリブルする
be an expert at	〔熟語〕	～の名人である
senior	〔形容詞〕	上級の、高校の
prejudice	〔名詞〕	偏見、先入観
society	〔名詞〕	社会

**P.94**

障害を持った人々の事を気の毒に感じる人もいるが、それは正しいことなのだろうか？

僕のように、他の人々と同じように楽しんでいる人もいるのである。

僕は、手足の代わりに、強い心を持っている。

ロゲンカということになると、僕は他の誰よりも 100 倍強い。

幼かった頃、僕は自分に障害があるということを全く気づいてさえいなかったのだ。